

著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又発表 の年月日	発行所・発表雑誌等 又は発表学会等の名	概 要
<著書> 1. 新しい幼児の音楽 リズム	共著	昭和 60 年 3 月	幼年教育出版	動きのリズムに関する基礎知識と具体的展開 例。
2. 表現するよろこび を伝えるミュージカ ル遊び	共著	平成元年 10 月	ひかりのくに	子どものミュージカル作品創作に関する知識 と具体例。
3. 保育内容の研究と 展開 一ふれあいをと おして育つもの一	共著	平成 3 年 6 月	嵯峨野書院	“動きによる表現”に関する理論と幼稚園での 実践例。
4. 保育内容“表現” 一身近なあそびから 表現活動へ一	共著	平成 5 年 3 月	幼年教育出版	“子どもの表現”に関する理論と著書によるオ リジナル作品と指導作品の紹介。
5. 子どもの発想を大 切にする身体表現あ そび	共著	平成 7 年 7 月	幼年教育出版	子どもの身近なあそびから身体表現への導入 と展開。
6. 子どもの健康一心 とからだ一実技編	共著	平成 8 年 2 月	三晃書房	身体表現と創造性についての理論と実践例。
7. 子どもの育ちと遊 び一いきいきと輝く とき一	共著	平成 9 年 5 月	朱鷺書房	子どもの遊びと育ちとの関わり(日本文化と 遊び)。
8. 1年ずつとおしゃれ にダンシング	共著	平成 10 年 1 月	ひかりのくに	子どものリズム遊び作品集。
<研究紀要> 1. 下肢におけるリズ ム再生の筋電図学的 研究	単著	昭和 41 年	日本女子体育連盟	大学生の下肢によるリズムパターン再生は、時 間的広がりをもつに組み立てる同一性の原理 に従っている。
2. 身体表現活動を通 して育つもの 一運動会作品一“桃 太郎”の実践より一	単著	平成 5 年 12 月	奈良保育学院紀要第 6 号	日常保育のあそびを生かした運動会経験が、 子どもの成長に与える影響。
3. 表現者と感知者の 認知の一致を高める 教材	共著	平成 6 年 2 月	京都体育学研究第 9 号	子どもの心の表れである身体表現を色彩とい う観点から検討した。

4. 表現者と感知者の 一致を高める教材 —色をテーマとしてy 幼児の身体表現の場 合—	共著	平成6年	京都体育学研究	色の表現遊びの教材は生活に密着した具体的なものを選択することで表現者と感知者の認知の一致度は高くなる。
5. 身体表現を通して 育つもの —運動会作品“ジャ ックと豆の木”の実 践より—	単著	平成7年12月	奈良保育学院紀要 第7号	運動会への父親参加力をとおして保護者への教育を考える。
6. 伝承遊びの特徴的 動作と空間の持つ意 味 —“かごめかごめ”の 場合—	共著	平成8年12月	大阪女子短期大学紀要 第21号	「かごめかごめ」は教育的機能を有し、日本の伝統的、特徴的文化のなかで生まれた遊びである。
7. 身体表現を通して 育つもの —運動会作品“空色 のたね”の実践より—	単著	平成9年12月	奈良保育学院紀要 第8号	本テーマは伝承遊びが集団の中で展開できる教材であり、子どもの個人的体験の大切さを示す作品である。
8. “たんす長持ち”の 教育的意識 —身体表現と日本文 化の視点から—	共著	平成11年8月	大阪教育大学教育研 究所報 NO. 34	伝承遊び“たんす長持ち”は子どもの心に共感や運動欲求への充足感をもたらす。子どもの心とからだの育ちに有意義なあそびである。
9. 幼児の豊かな心の 育ちを考えた身体表 現活動の研究 —運動会までのプロ セスを通して—	共著	平成12年5月	京都体育学研究第16号	子どもが身体表現をするためには、保育者は興味のあることを通して幼児の心を促がす捉え、幼児自身が積極的に体験し、表現でき、その表現を受容する人の存在が必要である。
10. 幼児の豊かな心の 育ちを考えた身体表 現活動の教材研究 —運動会までのプロ セスを通して—	共著	平成12年	京都体育学研究第16巻	保護者が幼児に提供する身体表現教材について現場での実践を通して検討した。幼児の表現は、教材に関わる人の問題と共に、幼児のいる環境も大きく関わりがある。
11. 子どもの遊びにお ける身体活動 —日本の伝承文化 “ナンバ”について—	共著	平成13年12月	大阪女子短期大学紀要 第26号	日本人の伝統文化である腰肚の身体感覚を呼び戻す教育が必要である。群れ遊びにより身体コミュニケーション感覚を養い、伝承遊びのなかでナンバを含む腰肚すなわち身体中心感覚を身に付ける保育を実践したい。

12. 家庭における 3. 4. 5歳児の食事調査	単著	平成14年12月	奈良保育学院紀要第10号	美味しい食のあるところに人が集まり、文化が花開き、芸術・科学が発展してきた。家庭はそれを実行する最小単位であり、家族のひとりひとりの人間性を培い、生きる力を養う最小単位である。保護者はそれを知って今後の食の充実を図ってはしい。
13. 本学院における領域“表現”の取り組みについて —身体表現の実践を通して—	単著		奈良保育学院紀要第	表現作品を創り発表する機会を持つ事は、表現の捉え方の体得と仲間との協力、共感が出来ており、良き保育者としての資質が育っている。
14. 保育学生における“子どものためのオペレッタ”創作に関する—研究 —学生生活における適応感及び充実感の関係—	共著	平成18年	奈良保育学院紀要第12号	オペレッタ部隊発表の前に緊張、不安、焦り、多忙感、苦勞をしたものは学生生活において居心持良さを感じていた。オペレッタ創作は学生生活に於ける適応感、充実感と関係がある事が示された。
15. 奈良保育学院における領域“表現”の取り組みについて —その独自性と学生の育ち—	共著	平成18年	奈良保育学院紀要第12号	作品創作過程は、学生の基礎的表現のとらえ方を学ぶ場を提供し、互いのコミュニケーション成立の場を提供する。共同作業により人間関係が構築され思いやりの基盤が育っている。
16. 保育者養成における領域「表現」と人間関係づくり	共著	平成20年	奈良保育学院紀要第13号	身体表現作品創作及び身体表現力とグループワークの活動への意欲、努力、熱心さ及び身体表現力は、強い正の相関が見られた。
17. 奈良保育学院における領域“表現”の取り組みについて —作品発表会の教育的意義— (アラジンと魔法のランプ)	共著	平成20年	奈良保育学院紀要第13号	作品発表会での表現者が展開する作品には鑑賞者である子どもが共感し、動きや歌の刺激と同期できていた。作品鑑賞後も、その影響は遊びに出現し、保育での実践（絵画、歌）の中で繰り返され、作品発表の機会は教育的な意味がある事は明らかである。
<学会・研究発表> 1. 伝承遊びに見られる身体表現Ⅱ —“かごめかごめ”の特徴的動作と空間が持つ意味—	共著	平成8年5月	日本保育学会	特徴的動作と日本人の日常生活動作との関連性、さらに遊びのなかで子どもの動きが創る空間の意味を明らかにし、伝承遊びにおける日本人固有の身体表現性を考察した。

2. 伝承遊びに見られる身体表現III — “はないちもんめ” —	共著	平成 10 年 5 月	日本保育学会	子どもの身体表現が持つ意味を遊びの展開、獲得方法、日本文化の観点から検討し保育教材としての意義を問うた。
3. 伝承遊びに見られる身体表現IV — 日常遊びとの関連性 —	共著	平成 10 年 5 月	日本保育学会	伝承遊びに見られる基本ステップは子どもの遊びから生まれるダンスへ発展すると考えられる。またリズムカルな運動能力の獲得とも関連している。
4. 幼児の感情表現についての研究 — 日常保育において感情表現が見える時 —	共著	平成 10 年 5 月	日本保育学会	3. 4. 5歳児を対象に調査をした。4歳児は好奇心旺盛で運動量、挑戦しようとする気持ちがともに他年齢時より高い。また喜ぶ表現がいずれの年齢も多く見られる。
5. 幼児の心の豊かさを育てる身体表現の教材研究	共著	平成 11 年 5 月	日本保育学会	身体表現発表へのプロセスで、幼児自身がどれくらい関与したかにより心の成長度が決定される。
6. 伝承遊びに見られる身体表現V — 子どもの遊びにおけるナンバー —	共著	平成 12 年 5 月	日本保育学会	伝承文化に見られる特徴的的身体活動ナンバーが子どもの自由な遊びに出現している。これが運動機能獲得に関連していると考えられる。
7. 伝承遊びに見られる身体表現VI — だるまさんがころんだ —	共著	平成 12 年 5 月	日本保育学会	この遊びの特性は構成員、ルール、運動の方向性、運動の種類、運動量に関して自己選択できる場所であり、また相手の心を押し量りながら遊びが展開されていく。この遊びは子どものころを育てる保育実践に有意義な教材である。
8. 家庭における子どもの運動遊び — 運動会行事の持つ意味 —	共著	平成 13 年 5 月	日本保育学会	運動会の経験により子どもは家庭において精神的成長と社会性の発達を示し、運動遊びを活性化させている。運動会は家庭における子どもの豊かな育ちへつながる行事であり、日常保育の運動遊びを発表する場としての意義は大きい。